

## 献 辞

安 蕪 幹 夫\*

佐藤明義先生のご退任にあたり、一言感謝の言葉を述べさせていただきます。

先生は、平成13年4月に、経済学科として初めての実業界出身の教授として本学に着任され、本年3月に退職されるまでの8年間ご勤務いただきました。

私は、先生ご着任前に、東京大学卒業、三井銀行入行、そして国際証券経済調査部長のご経歴を耳にして、怖さ半分、興味半分の気持ちでお迎えました。しかし実際お会いしてみると、明るくて気さくな、温厚でお話の好きな先生でした。すぐに広島の街で一献傾けたのを思い出します。

先生のご経歴は先述しましたが、少し詳しく述べさせていただきます。

昭和37年に東京大学教養学部をご卒業後、すぐに三井銀行入行、支店、本店勤務ののち、昭和44年から49年までの約4年間ニューヨーク支店に行かれ帰国しました。その後本店勤務を経て、再び昭和55年から58年までの3年間をニューヨーク支店次長としてお勤めになりました。帰国後は、本店勤務、三井銀総合研究所首席研究員を経て、平成4年に国際証券に転籍、平成11年さくら総合研究所経済研究センター首席研究員を最後に本学に着任されました。

その間、教鞭のご経験をお持ちで、貿易研修センター（貿易大学）講師（「外国為替・国際金融」、1年間）、税務大学校講師（「外国為替と企業経営」、短期研修、2年間）、拓殖大学商学部非常勤講師（「証券論」、平成9年4月～21年3月）、神戸商科大学大学院経済学研究科非常勤講師（「金融論研究Ⅱ」、平成12年）として、金融論、証券論等を担当されました。また著書数冊を発行し、学術論文も多数発表、職業柄でしょうか寄稿記事を多く書かれています。本学ご就任後も中国新聞経済メールマガジンの寄稿をお願いしました。詳細は、略歴等の欄の記述をご覧ください。

先生には、本学ご就任後、「金融論」「国際ファイナンス論」「経済入門」「演習Ⅰ、Ⅱ」、そして「野村証券提供特別講座」をご担当いただきました。

---

\* 広島経済大学経済学部長

金融論では、拓殖大学での講義で使用されていた著書をベースに教科書をすぐに刊行し、経済入門では共著者として金融部門を担当していただきました。いずれの書物も学生に好評で、授業評価も高得点を得ています。また、野村証券提供特別講座では、金融界ご出身ということで野村証券とも深いコネクションを作っていただきました。もちろん講座は現在も続いています。

大学行政の面では、地域経済研究所委員会委員長として、地域経済研究所の改革案を作成していただきました。まだ実現には至っていませんが、今後の参考にさせていただきたいと思っています。

最初に述べましたように、経済学科として初めて実業界からの先生として、佐藤教授をお迎えしました。その後金融分野の強化を考えて渡辺教授をお迎えし、お二人の先生に、当時経済学科が目標としていた実践・実務型人材育成に適う科目の設置をお願いしました。

ある日佐藤先生より、「水墨画を始めました」と言われて絵を出され、楽しそうな笑顔で説明をしていただきました。その後研究室に力作が増えたことは言うまでもありません。

先生は島根県ご出身で、たびたび帰省されたお話も耳にしました。もともとご旅行がお好きで、機会があれば関西方面を始め、福岡県、山口県にも足を運ばれていたようです。と申しますのも、スケッチ風の水彩画でお話をお聞きしていたからです。

先生の後任として、やはり実業界から福居信幸教授をお迎えしました。経済学科の科目の中でも、とくに金融分野の科目は「目玉科目」として、維持していかなければいけないと思っています。その先鞭をつけていただいた佐藤先生のご功績には、深く感謝している次第です。

最後になりましたが、ご健康にはくれぐれも気をつけられ、お好きな旅行、そしてスケッチを見せていただきたいと思っています。ぜひ広島にお遊びにいらしてください。

はなはだ簡単ではございますが、献辞とさせていただきます。